

## 1-1 日本とその周辺の地震活動（2007年11月～2008年4月）

### Seismic Activity in and around Japan (November 2007 – April 2008)

気象庁 地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division, JMA

今期間、日本とその周辺でM5.0以上の地震は57回、M6.0以上の地震は6回発生した。このうち最大は、2008年3月3日に千島列島東方で発生したM6.9の地震であった。

2007年11月～2008年4月のM5.0以上の地震の震央分布を第1図(a)及び(b)に示す。

主な地震活動は以下のとおりである。

#### (1) 北海道地方とその周辺の地震活動（本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2008年3月3日18時30分に千島列島東方でM6.9（国内で震度1以上の観測なし）の地震が発生した。この地震の発震機構（Global CMT解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震と考えられる。この地震の震源付近では2006年11月15日にM7.9、2007年1月13日にM8.2の地震が発生している。

2008年3月13日17時41分に根室半島南東沖の深さ59kmでM5.3（最大震度3）の地震が発生した。発震機構（CMT解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートの沈み込みに伴い発生した地震である。この地震は「平成6年（1994年）北海道東方沖地震」の余震域の南西端で発生した。

#### (2) 東北地方とその周辺の地震活動（本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2007年11月26日22時51分に福島県沖の深さ44kmでM6.0（最大震度4）の地震が発生した。この地震は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

東北地方太平洋側の地震活動（M5.0以上）は、2007年当初から低い状態が続いていた。このうち、南の領域では地震活動は回復しつつある。一方、北の領域では依然として低調な状態が続いている。

#### (3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動（本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2008年1月26日04時33分に石川県能登地方の深さ11kmでM4.8（最大震度5弱）の地震が発生した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この地震は、「平成19年（2007年）能登半島地震」（2007年3月25日M6.9）の余震であり、最大震度5弱を観測した余震としては、2007年3月28日に発生したM4.9の地震以来であった。能登半島地震の本震（M6.9）は、北東－南西走向、南東傾斜の逆断層であったが、この余震（2008年1月26日M4.8）直後に発生した余震は北西傾斜の面上に分布するように見える。また、能登半島地震（M6.9）の余震域の西端付近で、2008年3月17日にM4.5（最大震度2）、4月16日にM4.1（最大震度2）の地震が発生するなど、地震活動がやや活発になっている。

父島近海で2008年2月27日15時54分にM6.6（最大震度3）、さらに、3月15日07時32分にもM6.6

(最大震度3)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は、2月27日の地震が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型、3月15日の地震が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

静岡県西部の地殻内で、2007年11月12日頃から地震活動が発生している。活動は11月末頃から12月にかけて活発となった後、2008年1月に入り一旦落ち着いてきていたが、1月中旬から再び地震発生数が増加に転じ、1月27日10時33分にM4.1(最大震度3)、同日10時53分にM4.2(最大震度2)の地震が発生した。その後、活動は徐々に減衰し、5月末現在は低調なレベルで継続している。

(本巻※1参照)

- (4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動(本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2008年4月17日00時58分に明石海峡の深さ10kmでM4.1(最大震度4)の地震が発生した。また、18日04時11分には、ほぼ同じ場所を震源とする深さ10kmでM3.7(最大震度3)の地震が発生するなどややまとまった活動が見られたが、3日間で収まっている。今回の地震は「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」の余震で、発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。東西に圧力軸を持つ横ずれ型の本震のものとは異なるが、逆断層型の余震はこれまでも発生している。

- (5) 九州地方とその周辺の地震活動(本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2008年3月10日に日向灘の深さ29kmでM5.1(最大震度3)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

- (6) 沖縄地方とその周辺の地震活動(本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

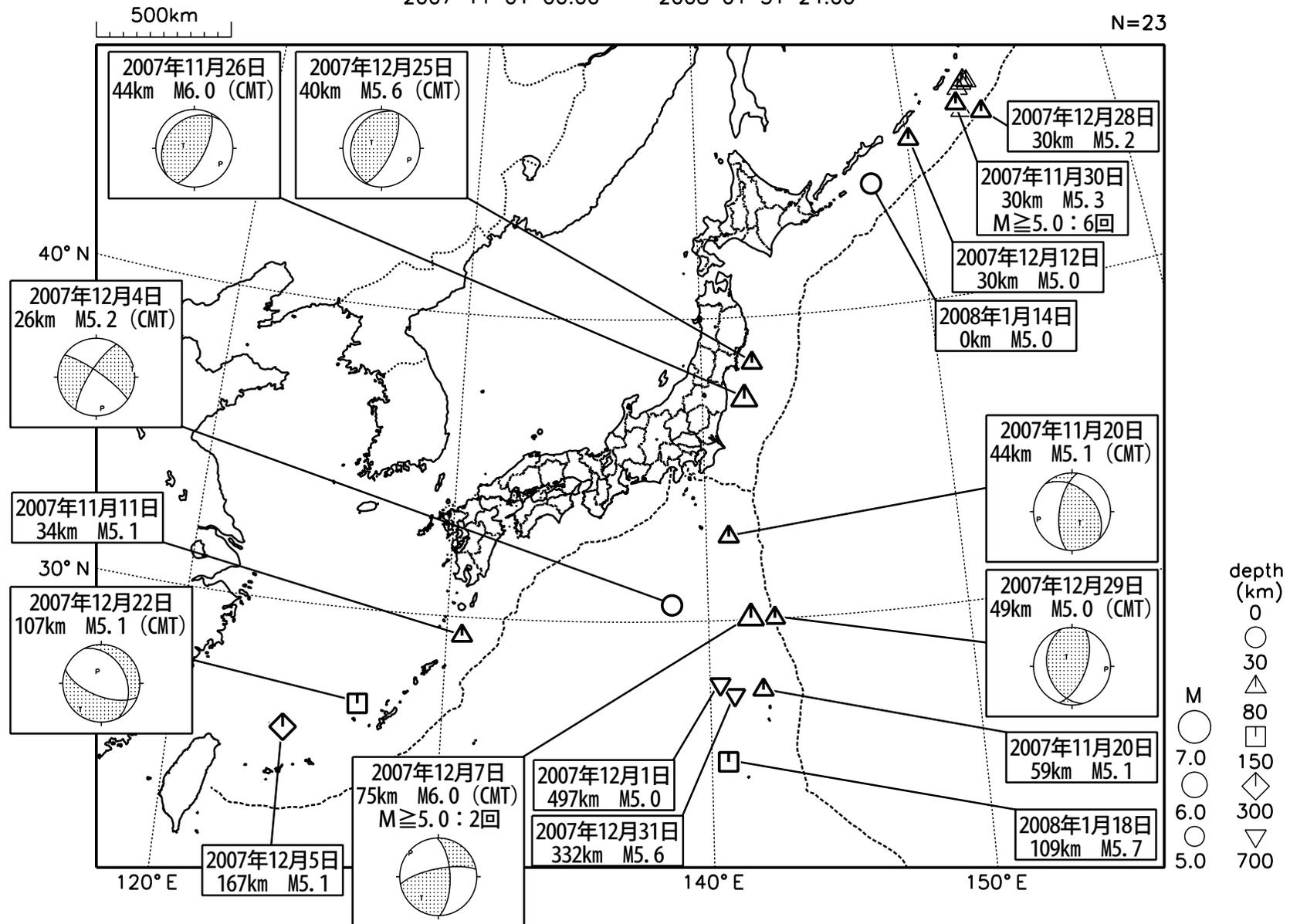
2008年4月24日03時28分に台湾付近でM6.3(国内で震度1以上の観測なし)の地震が発生した。発震機構(Global CMT解)は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

2008年4月28日02時32分に宮古島近海でM5.2(最大震度4)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は、北東-南西方向に張力軸を持つ正断層型で、大陸側プレートの地殻内で発生した地震と考えられる。

※1:「2007年11月から継続している静岡県西部の地震活動について」(気象庁)

# 日本とその周辺の地震活動 (2007年11月~2008年1月, $M \geq 5.0$ )

2007 11 01 00:00 -- 2008 01 31 24:00

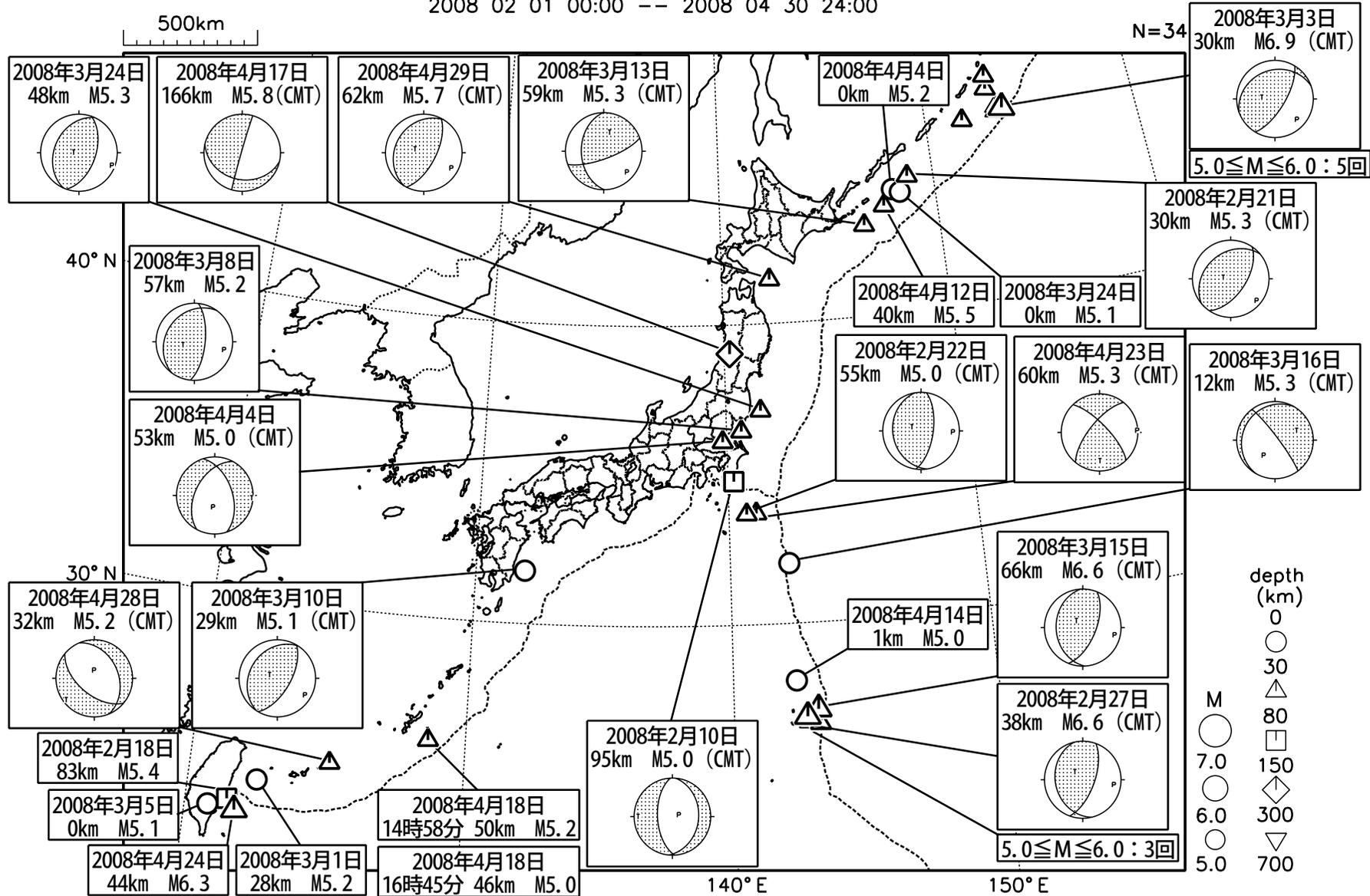


第1図(a) 日本とその周辺の地震活動 (2007年11月~2008年1月,  $M \geq 5.0$ , 深さ  $\leq 700$ km)

Fig.1(a) Seismic activity in and around Japan (November 2007 – January 2008,  $M \geq 5.0$ , depth  $\leq 700$ km).

# 日本とその周辺の地震活動 (2008年2月~4月, $M \geq 5.0$ )

2008 02 01 00:00 -- 2008 04 30 24:00



第1図(b) つづき (2008年2月~4月,  $M \geq 5.0$ , 深さ  $\leq 700$ km)

Fig.1(b) Continued (February - April 2008,  $M \geq 5.0$ , depth  $\leq 700$ km).